

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 高橋 正
作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。			
【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
基礎数学	基盤教育科目	1～4 年	
【夏期集中】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
【後期担当科目】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
情報倫理	基盤教育科目	1～4 年	
基礎数学	基盤教育科目	1～4 年	
【春期集中】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

--

5～10 行以内でご記載ください

本学では、数学が不得意だった学生が多い。そのような学生は「自分は数学ができない」という劣等感を抱いている。そして、どこができないのか、どのようにすれば理解できるのか、という発想そのものから逃避する傾向がある。しかし、少しずつ自分のペースで理解することを繰り返せば、苦手意識は薄らぎ、大学での学びが自分の興味・関心を深める場であること、社会的関心を深め社会の中で自分が果たす役割を自覚すること、友人との学び合いができる「楽しい」学びの場であることを実感できるようになる。授業においては、そのような学生は、少数ではあるが存在する。そういう意識のある学生を一人でも増えることを心がけ基礎・基本を丁寧に説明する授業を心がけています。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、基礎数学は DP2-1（基本リテラシー）「数的思考力」の育成、情報倫理は DP2-1（基本リテラシー）「基礎的な ICT 活用力」の育成に力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

4. 成果と課題、今後の計画

--

＊ 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

＊ 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 中川 恵
作成日 2025 年 6 月 6 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
国際政治学	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 1 Q
現代メディア分析	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	第 2Q

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
総合メディア論 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	1～4 年	第 3Q
国際関係論	専門科目（現代社会学科）	2～4 年	第 4Q

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

現代社会において多様性尊重の重要性は広く認識されていますが、実際には国内外を問わず、様々な形での紛争や対立が存在しています。大学入学までの大半もしくはすべての時期を日本国内のみで過ごした日本人学生、また母国と唯一の外国として日本での滞在経験に限定される留学生に対し、広く世界の文化や社会の成り立ち、現状に目を向けてもらい、またメディアによる報道や伝え方の特徴を知ることによって大量に流れる情報の受け止め方、そして発信の仕方を修得してもらえよう留意した授業を心がけています。学生には、本学の建学の精神である「自由・自主・自律・個性尊重」の精神を持って、真実を探求する大切さを卒業時には自らのものとして体得して巣立ってほしいと考えています。卒業後の社会は、現在より多様な背景を持つ人々が共生する必要が大きくなっていると考えられますので、異文化を初めとして、自らとは異なるバックグラウンドを理解し、共生社会を担うことのできる人材を育成することに力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針 1

工夫①：

工夫②：

教育方針 2

工夫①：

工夫②：

教育方針 3

工夫①：

工夫②：

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画につ

いて記載してください。

【成果】

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

＊ 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

＊ 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送メディア映像学科
氏 名 にしゃんた
作成日 2025 年 6 月 17 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
国際社会と日本	基盤・学外研修	1～4 年	
知識社会論	学外共通専門分野	2～4 年	
比較文化	基盤教育科目	2～4 年	
専門ゼミナール I	専門演習分野	2～4 年	
専門ゼミナール III	専門演習分野	3～4 年	
ボランティア活動 A	基盤・学外研修	1～4 年	
ボランティア活動 B	基盤・学外研修	1～4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
ボランティア活動 A	基盤・学外研修	1～4 年	
ボランティア活動 B	基盤・学外研修	1～4 年	
放送メディア特別講義 D	専門演習分野	2～4 年	
ボランティア論	基盤・学外研修	1～4 年	
共生社会論	基盤・教養分野	1～4 年	
専門セミナー II	専門演習分野	2～4 年	
専門セミナー IV	専門演習分野	3～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

本校は、今後ますます進展するであろう多様化社会に対応する“免疫”を身につけ、それを力に変えて社会で活躍できる人材を育成するための環境が整っています。にもかかわらず、たとえば教室内で多国籍化が進んでいるにも関わらず、国籍ごとに棲み分けがなされているような光景が見受けられます。また、物事を表面的にしか捉えられず、深く考える力が十分に育まれていないと感じる場面もあります。こうした課題を踏まえ、学生同士の交流を促進し、教材や地域社会に存在する「国際」や「共生」に関わる素材を活用しながら、学ぶことの意義、あり方、そして楽しさを体感的に理解させたいと考えています。

加えて、授業中のマナーやルールの遵守を徹底することで、社会人としての基本的な心構えも養われています。

これらの取り組みは、本学の教育上の使命・目的である「共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」に深く関わるものであり、全学的なディプロマ・ポリシー（DP）との整合性にも配慮しています。特に、DP1-1「知識・理解（多様性への理解）」において示される「人間・社会・文化・地域の多様性についての基本知識を修得し、幅広い視野と柔軟な感性で物事を受け止め、理解する力を備えた人材」の育成に重点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

具体的な成果は目に見えにくいものの、レポートや学生との対話を通じて、共生社会に生きるための“免疫”が少しずつ育まれ、確かな成長が感じられます。

【課題と今後の展望】

- ・受講生の規模にもよりますが、可能な限り、大学周辺の国際理解や共生に関わる現場へのフィールドワークを取り入れ、現場で“肌で感じて学ぶ”機会を仕掛けていきたいと考えています。
- ・授業では言葉だけで伝えることの限界を痛感しており、映像資料の活用が理解の深化や目的達成に有効であると感じています。今後は、より積極的に映像を取り入れた授業設計を進めてまいります。

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

放送・メディア映像学科

氏 名 早岡 英介

作成日 2025 年 6 月 13 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
取材と編集Ⅰ	放送・メディア分野	3 年	第 1 Q
映像編集応用	放送・メディア分野	3 年	
大学入門ゼミナールⅠ	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文Ⅰ	専門演習分野	4 年	2 コマ開講

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
取材と編集Ⅰ	放送・メディア分野	3 年	第 3Q
映像編集基礎	専門導入分野	1 年	2 コマ開講
大学入門ゼミナールⅡ	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文Ⅱ	専門演習分野	4 年	2 コマ開講

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

メディアを巡る環境は激変し、放送と通信の融合が急速に進んでいます。各個人が YouTube や Instagram、X 等を通して情報発信することが当たり前となり、送り手にもなることで、個人とメディアの関係性は多様化の一途をたどっています。

過去の放送分野での教育実績をもとに、先端技術を取り入れたさらなる教育実践を進めていくことが重要です。例えば撮影分野でいえば、一眼レフ、アクションカメラ、スタビライザーといった多様な映像デバイスによる表現手法の習得。編集分野でいえば、Adobe のソフトや 3DCG ソフトに加え、画像生成 AI 機能の習得があげられます。

また DP4-1 統合的な学修経験と創造的思考力の育成のためには、こうした技術の習得以前に、学生が社会の実相をとらえるための教養やリテラシー、思考力がなければ、創造性を発揮することはできません。個人のスキルの幅を広げ、自ら伝えることの喜びや意欲を育みたいと考えています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 大江 秀幸
作成日 2025 年 6 月 13 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
データ構造とアルゴリズム	専門科目	3～4 年	
データベース II	専門科目	3～4 年	
専門ゼミ III	専門科目	1～4 年	
情報ネットワーク論	専門科目	2～4 年	
コンピュータ概論 I	専門科目	1～3 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
卒業制作・論文 II	専門科目	4 年	
情報ネットワーク演習 II	専門科目	2～4 年	
専門ゼミ IV	専門科目	3 年	
データベース I	専門科目	2～4 年	
専門ゼミ II	専門科目	2 年	
情報処理入門	基盤教育科目	1～4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

情報科目は高校のカリキュラムに導入されて日が浅く、他の科目と比較して全体的に学習時間、期間が短い傾向にあります。そのため、情報は分野によっては大学からでも習得の遅れを取り戻せ、他の科目で自信を無くしてしまっても、十分に挽回できる可能性があります。

まずは学生が情報分野への興味を失わないよう、現代社会での「情報」の活用状況を具体的に伝えつつ、卒業後に社会で自信を持ってITシステム等を利活用できるよう、DP2-1（基本リテラシー）の育成を目標に進めています。

また、新たな用語や概念は、繰返し学習することで身につくため、毎回のまとめ問題や課題を通してDP3-2（学修習慣）を意識させるような指導を心がけています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送メディア映像学科
氏 名 川上申之介
作成日 2025 年 6 月 12 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
プログラミング応用Ⅰ	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	
プログラミング基礎Ⅰ	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
プログラミング演習Ⅰ	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
大学入門ゼミナールⅠ	基盤教育科目	1 年	
専門ゼミナールⅢ	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	
情報処理入門	基盤教育科目	1 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
プログラミング応用Ⅱ	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	
プログラミング基礎Ⅱ	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
卒業制作・論文Ⅱ	専門科目（放送・メディア映像学科）	4 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基盤教育科目	1 年	
専門ゼミナールⅣ	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	
専門ゼミナールⅡ	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

日常的に ICT や IoT と接する機会が多い現代社会において、働いて生活していくために必要となる技術だけではなく考え方や心構えを含めて助言や導入ができるような授業を行うように心がけています。特に専門科目では、単なる模倣ではなく学生が自ら考え解決できるよう導くことにより、能動的に考え問題解決力を育めるような距離感を保ち助言を行い、自発的な学修の定着を目指しています。大学卒業後に学生が就職し、社会人となっても規則正しく自立した国際人として暮らせるように、相手をリスペクトでき自分を律すること（遅刻や私語をしない、周囲への気配りができる、レポート提出の期限厳守）など社会人マナーの涵養も徹底しています。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、基盤共通科目においては DP2-1（基本リテラシー）「自分の考えを的確に表現するための日本語運用能力、基礎的な ICT 活用力、数的思考力、外国語運用能力などの基本リテラシーを修得している。」、専門科目においては DP3-1（学修姿勢）「建学の精神、使命・目的を理解し、自らをかけたがえのない存在として、常に前向きに学ぼうとする姿勢を有している。」の育成に力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

放送・メディア映像学科

氏 名 北波 英幸

作成日 2025 年 6 月 17 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
シナリオ・絵コンテ	映像コンテンツ分野	2 年	
総合メディア論 II	学科共通専門分野	2 年	
メディアリテラシー	学科共通専門分野	2 年	
制作概論	放送・メディア分野	1 年	
専門ゼミナール I	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナール III	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 I	専門演習分野	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
シナリオ・絵コンテ	映像コンテンツ分野	2 年	
総合メディア論 II	学科共通専門分野	2 年	
専門ゼミナール II	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナール IV	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 II	専門演習分野	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

放送・インターネット配信など接触機会が多様化するメディア社会における DP2-1（基本リテラシー）の習得を大きなテーマとし、3つの柱を念頭におきます。

第一に「コミュニケーションのフレーム」です。何を伝えるのか（what to say）、どのように伝えるのか（how to say）を明確に意識する枠組みです。さらに「受け手」の姿を想定しつつコンテンツへと落とし込みます。趣味の制作との違いは、コミュニケーション・プロセスを理解することです。

第二に「表現のフレーム」です。「how to say」を練り上げる技術です。制作過程でのリサーチ、構成台本執筆・個人／グループ制作経験を通じ、DP4-1（課題解決力）や DP3-3（協働力）の育成を目指します。

第三に「表現を支える理論や技術のフレーム」です。様々なメディア社会にまつわる理論や歴史を知ることです。すぐに理解できなくとも、社会に出たのち「そういえば」と思い出せることもまた重要だと考えます。短期的視野からは評価されず、特に「即戦力」を期待されがちである就職状況調査などでも数字としては顕在化しないものの、DP4-2（生涯学習力）に通じる長期的な効果を見通した教育機会と考えます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア学科
氏 名 玉井敏晴
作成日 2025 年 6 月 16 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
グラフィックデザイン I	専門導入分野	1～4 年	
CG 演習 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
CG 演習 III	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
映像デザイン論	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
専門ゼミナール III	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 I	専門演習分野	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
CG 演習 I	専門導入分野	1～4 年	
空撮演習	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
コンポジット演習	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
専門ゼミナール II	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナール IV	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文 II	専門演習分野	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

私の教育に対する理念は、建学の精神のもと、学生一人ひとりの特性や興味を尊重し、彼らが自らの目標を追求できる環境を提供、支援し、社会に貢献できる人材を育てることにあります。教育上の目的は、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけることです。授業では、知識だけでなく、思考力や創造力を養うためのアプローチを取り入れています。特に「基本リテラシー」と「自己管理能力」の育成を重視し、学生が将来の社会で自信を持って活躍できるようサポートします。学生が仲間と共に学び合い、多様な視点を持つことの重要性を理解し、成長に向けた主体的な取り組みを支援し、未来の社会を担う人材を育成に注力しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針 1 学生中心の学びを促進する

工夫①：学生が興味を持つテーマについて自主的に研究や制作を行う機会を提供する。

工夫②：定期的にフィードバックを行い、学生が自らの学びを振り返り、次のステップを考える時間を確保する。

教育方針 2 思考力と創造力を育む

工夫①：ディスカッションやグループワークを取り入れ、創造性や包括的な理解を育てる

工夫②：実際の問題解決に取り組む課題を設定し、自身のアイデアを形にするプロセスを体験できるようにする。

教育方針 3 社会での自立を促す

工夫①：オフキャンパス活動などで実践的なスキルを身につける機会を提供する。

工夫②：インターンシップやボランティア活動を推奨し、学生が実社会での経験を通じて自信を持って成長できるよう支援する。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 学生が自主的に興味あるテーマで研究し、プロジェクトに積極的に取り組む姿勢が見られた。
- 自己評価力と改善策を見出す能力が向上した。
- 問題解決課題を通じて自分のアイデアを形にし、創造的な解決力が高まりました。
- オフキャンパス活動やインターンシップで実践的なスキルを習得し、自信を持つようになった。
- ボランティア活動を通じて、社会的責任感が高まり、自己成長の機会を得た。

【課題と今後の展望】

- 授業内にピアレビューや相互発表の機会を増やすことで、学びの主体性をさらに引き出す工夫を行いたい。
- 初学者向けの補助教材や動画チュートリアルを拡充し、技術面でのつまづきを軽減するサポート体制を整える。

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 永岡俊哉
作成日 2025 年 6 月 16 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅠ	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナールⅠ	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナールⅢ	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文Ⅰ	専門演習分野	4 年	
アナウンスメント基礎	専門導入分野	1 年	
メディア産業論	放送・メディア分野	2 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅡ	大学導入分野	1 年	
専門ゼミナールⅡ	専門演習分野	2 年	
専門ゼミナールⅣ	専門演習分野	3 年	
卒業制作・論文Ⅱ	専門演習分野	4 年	
アナウンス概論	放送・メディア分野	2 年	
エンターテインメント論	放送・メディア分野	2 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

人の生命を守る事が最も重要な使命であるメディア、特に放送業界で働く事を目指す学生に、「最も大事なことを、全ての人に対して、直ちに、正確に理解してもらうために伝えるという力」を習得してもらう事を最重要事項としてすべての講義、ゼミを行っている。

1年次では人前で話し、伝える事の重要性を理解し、その力を得てもらうために、自己紹介や自己の興味を伝える、他人に興味を持ち調べ多くの人に伝える、人前で話し理解してもらう事を反復して行わせている。また、研究者としてのスタートを切った大学生として、自分のテーマを見つける事も促している。DP2-1（基本リテラシー）DP3-2（学修習慣）相当

2年次、3年次では伝える力をさらに強化するとともに、グループで映像や音声を作り上げる事や、与えられたテーマや課題をクリアしていく事、失敗したり間違ってしまった後にリカバーする事を行わせている。DP3-2（学修習慣）DP3-3（協働力）DP4-1（課題解決力）相当

4年次では世界で一つしかない作品を作る卒業制作を中心に、社会でも通用する能力を習得させる事や、能動的にキャリア形成していく事を促している。DP3-2（学修習慣）DP3-3（協働力）DP4-1（課題解決力）DP4-2（生涯学習力）相当

全学年を通して、放送・メディア映像学科の全ディプロマポリシーに基づいた、社会で活躍できる放送メディア人の育成を理念としている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 現代社会学部

放送・メディア映像学科

氏 名 内田 知巳

作成日 2025 年 6 月 15 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
スタジオ基本操作	専門導入	1 年～	3 クラス
撮影技法	放送・メディア分野	2 年～	
専門ゼミ I	専門演習	2 年～	
専門ゼミ III	専門演習	3 年～	
卒業制作 I	専門演習	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
映像編集基礎	専門導入	1 年～	2 クラス
放送メディア特別演習 A	放送・メディア分野	2 年～	Q3、Q4 各 1 クラス
専門ゼミ IV	専門演習	3 年～	
卒業制作 II	専門演習	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
放送メディア特別演習 B	放送・メディア分野	3 年～	

【学科内での教学的役割】

教室設備の維持・メンテナンス・物品購入などの見積もり・手配、設置など。ソフトウェア更新。
特に今年度は第 2 コンテンツルームの PC 更新、スタジオ照明システムの更新。

2. 理念

* 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
* 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」という大学の使命を踏まえ、テレビ番組、映像制作への興味を、CP1-2にあるような学科での学びを通じ具体的な専門分野、職種へとつなげていくように関心とモチベーションを高めていけるよう心がけている。最終的に、2年生～4年生ゼミを通じて専門性を高め、CP4および学科DP4に基づく主体的に自ら映像制作に打ち込み最終成果に結実させるように学生を育てていくことに努めている。

また、演習実習授業の中では、全学DP3-3および学科CP3を念頭に、留学生、日本人学生、要配慮学生、など、様々な学生を交えてのグループワークを通じ、多様性、国際的な人間関係を通じて仕事をこなしていく態度を身に付けてもらうように、常に配分に気を配り行っている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針1 実際にあるコンテンツの中で生かされている技術・知識を提示する。

工夫①：ドラマ、映画、番組の1シーンを事例として提示し、理論や技術を解説。

工夫②：常に最新の映像な中から活用事例を見つけ、紹介事例を更新し続ける。

工夫③：具体的な映像や実演を通じて、自分自身の映像制作にも活かせることを実感させる。

教育方針2 授業内容と直結したオフキャンパスなどの実践の場を用意する

工夫①：「スタジオ基本操作」「音声基礎」「映像編集基礎」などの実践としてオープンキャンパスの放送メディアコース体験授業の学生スタッフに参加してもらう。

工夫②：ファッションショーでも、様々な科目の要素を取り入れ、実践の場として学生が主体的に活躍できる環境とチーム編成をくみ上げる。

教育方針3 学習の成果を可視化する

工夫①：実技演習系の科目においても、講義回を設け知識を深める。

工夫②：大半の科目について期末試験を設け、学習成果の明確な数値化を測る。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- シラバスに掲載した授業計画に、忠実に進行出来た。
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（オープンキャンパス学生スタッフの増加）
- 特別演習 B では、ファッションショー運営ではオフキャンパスでの実践の場を作り、上級生が下級生を指導しながらリーダーシップを養成する環境を整えた
- 撮影技法を座学として知識を深め、特別演習 A での学外研修による実践という連携を深めた履修モデルを設定した。前年まで履修順序を逆転してしまう学生が多発していたが、カリキュラムを改善した。

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

要配慮学生への対応として、オンデマンド学習コンテンツを充実させたい。

最新の機材やソフトウェアの使用事例を増やし、科目へ反映させたい。

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 上舘美緒里
作成日 2025 年 6 月 17 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
情報処理入門	基盤教育科目	1～4 年	
プログラミング基礎 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	1～4 年	
情報科教育法 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	3～4 年	
専門ゼミ I	専門科目（放送・メディア映像学科）	2～4 年	
専門ゼミ III	専門科目（放送・メディア映像学科）	3～4 年	
卒業制作・論文 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
情報メディア数学 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
情報処理入門	基盤教育科目	1～4 年	
情報科教育法 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	3～4 年	
情報メディア数学 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	
専門ゼミ IV	専門科目（放送・メディア映像学科）	3～4 年	
卒業制作・論文 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
なし			

2. 理念

現代社会は世界的に情報化が進んできている一方で、単一の技術や知識で対応できない課題が増え
てきている。例えば情報活用能力といってもただパソコンを操作できることではなく、状況に応じて
手段や情報を取捨選択する力や機械化され効率化される中に置き去りにされてしまう人間の心理的な
動きも考慮した技術革新が必要となっている。加えて、国籍や障がいなど多様な背景を持つ学習者が
質の高い教育にアクセスできる環境にありながら、実際には実現していない人間システム由来の障害
に対する課題解決も必要である。これらの背景に対して、自身が専門とする遠隔教育・特別支援教育・
国際開発の領域を生かして LMS や WEB・動画教材を活用し、開講するすべての授業においてオンラ
イン学習対応を可能としている。また、複合的な情報スキルを活用した PBL（問題解決型学習・プロ
ジェクト型学習）型の手法を取り入れることにより、DP1 から DP4 まで各学年の学修進度に応じたス
パイラルカリキュラムとなるように構成し、学びの記録として WEB ページ型ポートフォリオの作成
を行っている。これらにより能力や文化の差異によらない個別最適化された教育を目指している。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条
書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するように毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につ
ながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学
所 属 現代社会学部
放送・メディア映像学科
氏 名 倉橋 農
作成日 2024 年 9 月 29 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神「『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることにつながります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
卒業制作・論文 I	専門科目（放送・メディア映像学科）	4 年	
情報処理入門	基盤教育科目	1 年	
放送メディア特別講義 C(自然言語処理)	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	
大学入門ゼミナール I	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
専門ゼミナール I	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	
専門ゼミナール III	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
------	------	------	----------

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
卒業制作・論文 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	4 年	
プログラミング基礎 II	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
大学入門ゼミナール II	専門科目（放送・メディア映像学科）	1 年	
専門ゼミナール II	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	
専門ゼミナール IV	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	
電子工作基礎	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	第 3 Q
放送メディア特別演習 C	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	第 3 Q
電子工作応用	専門科目（放送・メディア映像学科）	2 年	第 4 Q

放送メディア特別演習 D	専門科目（放送・メディア映像学科）	3 年	第 4 Q
【春期集中】			
科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

5～10 行以内でご記載ください

教員はともすれば学生を子供扱いしてしまいがちです。学生は教育の対象であるがゆえ、導いていなくてはならない存在ですが、それと同時に、すでに分別を持った成人でもあります。それゆえ、一人前の大人として対等な立場で接することを心がけています。それにより、学生も大人としてのマナーや自覚の涵養をうけ、自立した存在として育っていくことが可能だと考えています。

同時に、学生に学習への主体的な参加を促すことも教員の大切な使命です。そのために、授業内外で「あなたはこの授業やコース、大学というコミュニティの一員である」ことを明示的・非明示的に示すことを心がけています。具体的には、消極的だったり授業についてこられなかったりといった学生がいないかを常にチェックすること、そして例えば授業で目を合わせる、適切な頻度で発言を促す、必要があれば面談を行い傾聴するなどこちらからの働きかけを怠らないことが大切だと考えられます。

これらは、DP3-2（学修習慣）「自己を管理する力を身につけ、自らの立てた目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣」にもつながる力です。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：

工夫②：

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。